

令和4年度学校自己評価システムシート（県立越谷北高等学校）

目指す学校像 高い理想と豊かな人間性を兼ね備えたグローバルリーダーを育成する。

重点目標

- すべての教育活動における「主体的・対話的で深い学び」によって、一人一人の生徒の主体性を伸ばす。
- 理数教育やSSHの取組の充実と「リベラルアーツ」教育の実現によって、グローバル人材としての資質を高める。
- 地域と連携し、高い進路目標を掲げ、自己実現を目指す学校の情報を発信し、学校の評価を高める。

A	ほぼ達成(8割以上)
B	概ね達成(6割以上)
C	変化の兆し(4割以上)
D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	10名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	13名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

年度		学 校 自 己 評 価		年度評価（1月31日現在）							
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策				
1	【現状】 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善は進んできている。 ○ICTを活用した授業を実践する教員は増加している。 ○「卒業までに身に付けたい資質」として「主体性」を共有している。 ○組織的な生徒指導体制は整っている。 【課題】 ①BYODを活用した授業の実践 ②「深い学び」に向けた指導の工夫・改善が必要 ③受験知識偏重から視野の拡大や教養の習得へ意識を変化させた授業改善 ④部活動の勉強との両立に向けた計画、指導の工夫、及び保護者との共通理解 ⑤生徒の「主体性」を伸ばす指導の全般的な取組 ⑥生徒の個別な状況に応じた対応の工夫	①ICTの効果的な活用	a 「リベラルアーツ」教育とデータの共有化の推進 b ハイブリッド型の実践 c BYAD導入に向けた研究	ア ICTを活用する授業、教材等のデータの共有は増加したか。 イ BYODを活用した授業が実践されたか。 ウ BYAD導入に向けた研究を進め、導入した際の活用方法を共有できたか。	①全校を挙げて取り組み、ほぼ達成できた。 ア：ICTを活用した教員91.5%は昨年度より8P向上。教材等を共有した教員76.6%も昨年度より16P向上【教員アンケートより】 イ：BYODを活用した教員57.4%は20P以上【教】、活用した生徒55.6%も4P向上【生】 ウ：1人1台導入に向け、年度末までにWi-Fiの整備等環境改善予定。またプロジェクタの活用も進められ、ほぼ達成できた。	A	①BYODを活用した授業の実践 ②「深い学び」に向けた指導の工夫・改善が必要 ③受験知識偏重から視野の拡大や教養の習得へ意識を変化させた授業改善 ④部活動の勉強との両立に向けた計画、指導の工夫、及び保護者との共通理解 ⑤生徒の「主体性」を伸ばす指導の全般的な取組 ⑥生徒の個別な状況に応じた対応の工夫	a 「リベラルアーツ」教育を意識した授業の実践 b 主体的に学ぶ意識の啓発 c 深い学びへ導く指導の工夫・改善	ア 生活の授業への期待や、受験知識偏重から視野の拡大や教養の習得へ変化したか。 イ 主体的に深く掘り下げて学んだ経験をした生徒は増加したか。 ウ 生徒の「主体的に学び続ける力」を高めるための意識啓発に取り組み教員は増加したか。 エ 深い学びを意識した指導は実践されたか。	①ICT教育に、学校を上げてよく取り組んでいることが分かった。Wi-Fi環境の整備、扱うソフトなど課題もあるが、令和5年度の新しい年生から導入されるBYADに向けて、良い環境で生徒が学習できるように取り組む。そのための授業研修週間の活用 ○生徒が主体的に活動できるような部活動、学習行事について保護者の理解が得られるような計画と活動実践 ○生徒が主体的に行動し、自律できる生徒指導実践	
		②「深い学び」の検証と研究	a 「リベラルアーツ」教育を意識した授業の実践 b 主体的に学ぶ意識の啓発 c 深い学びへ導く指導の工夫・改善	ア 生活の授業への期待や、受験知識偏重から視野の拡大や教養の習得へ変化したか。 イ 主体的に深く掘り下げて学んだ経験をした生徒は増加したか。 ウ 生徒の「主体的に学び続ける力」を高めるための意識啓発に取り組み教員は増加したか。 エ 深い学びを意識した指導は実践されたか。	②新新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各部活動・行事の実施基準を再見直し、全校職員共通理解のもと概ね達成することができた。 ア：指導改善に取り組み信頼関係を築いた教員80.9%【教】、共通理解をしている81.2%【生】、77.1%【保】 イ：部活動に対して肯定的な割合92.3%【生】、86.0%【保(評価3.39)】 ウ：行事に対して肯定的な割合88.9%【生(評価3.28)】、90.9%【保(評価3.39)】 エ：ウの結果より、増加という観点より、行事の実施内容の工夫等でコロナ対策に理解をいただいている。	B	③部活動や学校行事の充実	a 部活動における顧問と生徒との目標等の共有化 b 部活動と学習活動の両立 c 学校行事等の生徒主体による実施	ア 顧問と生徒、保護者で部活動の目標や計画について共通理解し、信頼関係はできているか。 イ 部活動と学習活動を両立できていると感じている生徒・保護者の割合は8割を超えたか。 ウ 生徒アンケートで学校行事に関する評価（肯定的評価：4段階評価で3.0以上）は向上したか。 エ 生徒主体に実施された学校行事等は増加したか。	③新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各部活動・行事の実施基準を再見直し、全校職員共通理解のもと概ね達成することができた。 ア：指導改善に取り組み信頼関係を築いた教員80.9%【教】、共通理解をしている81.2%【生】、77.1%【保】 イ：部活動に対して肯定的な割合92.3%【生】、86.0%【保(評価3.39)】 ウ：行事に対して肯定的な割合88.9%【生(評価3.28)】、90.9%【保(評価3.39)】 エ：ウの結果より、増加という観点より、行事の実施内容の工夫等でコロナ対策に理解をいただいている。	B
		③「主体性」を伸ばす取組と個別の状況に応じた対応	a 生徒の「主体性」を高めるための意識啓発及び取組の工夫・改善 b スクールポリシーの共有 c 生徒の個別の状況に応じた面談や教育相談の充実	ア 生徒指導等において生徒の「主体性」を伸ばすための工夫・改善は行われたか。 イ 交通マナーやSNS等に関する自律的な姿勢を育成する指導を適切に実施したか。 ウ ディプロマポリシーからスクールポリシーへと共有を進めることができたか。 エ 生徒個別の状況に応じた適切な対応、スクールカウンセラーによる教育相談を適時・適切に実施できたか。	④「主体性」を伸ばす取組と個別の状況に応じた対応 ア：ほぼ達成できた。 イ：Eを改善に取り組んだ教員87.2%と現状維持【教】、あいさつする生徒も増加傾向あり イ：意識啓発に取り組んだ教員89.4%と現状維持【教】、交通マナーに関する生徒の発表もあった。 ウ：スクールポリシーは共有し、学校HPに掲載 エ：教育相談体制を整え、スクールカウンセラー活用を定期的に行い情報共有できた。相談件数延べ57件（1月末現在）	A	④「主体性」を伸ばす取組と個別の状況に応じた対応	a 生徒の「主体性」を高めるための意識啓発及び取組の工夫・改善 b スクールポリシーの共有 c 生徒の個別の状況に応じた面談や教育相談の充実	ア 生徒指導等において生徒の「主体性」を伸ばすための工夫・改善は行われたか。 イ 交通マナーやSNS等に関する自律的な姿勢を育成する指導を適切に実施したか。 ウ ディプロマポリシーからスクールポリシーへと共有を進めることができたか。 エ 生徒個別の状況に応じた適切な対応、スクールカウンセラーによる教育相談を適時・適切に実施できたか。	④「主体性」を伸ばす取組と個別の状況に応じた対応 ア：ほぼ達成できた。 イ：Eを改善に取り組んだ教員87.2%と現状維持【教】、あいさつする生徒も増加傾向あり イ：意識啓発に取り組んだ教員89.4%と現状維持【教】、交通マナーに関する生徒の発表もあった。 ウ：スクールポリシーは共有し、学校HPに掲載 エ：教育相談体制を整え、スクールカウンセラー活用を定期的に行い情報共有できた。相談件数延べ57件（1月末現在）	A
		④「主体性」を伸ばす取組と個別の状況に応じた対応	a 生徒の「主体性」を高めるための意識啓発及び取組の工夫・改善 b スクールポリシーの共有 c 生徒の個別の状況に応じた面談や教育相談の充実	ア 生徒指導等において生徒の「主体性」を伸ばすための工夫・改善は行われたか。 イ 交通マナーやSNS等に関する自律的な姿勢を育成する指導を適切に実施したか。 ウ ディプロマポリシーからスクールポリシーへと共有を進めることができたか。 エ 生徒個別の状況に応じた適切な対応、スクールカウンセラーによる教育相談を適時・適切に実施できたか。	④「主体性」を伸ばす取組と個別の状況に応じた対応 ア：ほぼ達成できた。 イ：Eを改善に取り組んだ教員87.2%と現状維持【教】、あいさつする生徒も増加傾向あり イ：意識啓発に取り組んだ教員89.4%と現状維持【教】、交通マナーに関する生徒の発表もあった。 ウ：スクールポリシーは共有し、学校HPに掲載 エ：教育相談体制を整え、スクールカウンセラー活用を定期的に行い情報共有できた。相談件数延べ57件（1月末現在）	A					

学校関係者評価	
実施日	令和5年2月6日
学校関係者からの意見・要望・評価等	○BYADを活用した授業実践時に新1年生で活用する端末の効果的な活用 ○新学習指導要領に沿った「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導改善、そのための授業研修週間の活用 ○生徒が主体的に活動できるような部活動、学習行事について保護者の理解が得られるような計画と活動実践 ○生徒が主体的に行動し、自律できる生徒指導実践
○ICT教育に、学校を上げてよく取り組んでいることが分かった。Wi-Fi環境の整備、扱うソフトなど課題もあるが、令和5年度の新しい年生から導入されるBYADに向けて、良い環境で生徒が学習できるように取り組む。そのための授業研修週間の活用 ○生徒が主体的に活動できるような部活動、学習行事について保護者の理解が得られるような計画と活動実践 ○生徒が主体的に行動し、自律できる生徒指導実践	○探究学習については、生徒は失敗から学ぶものが大きい。与えられたものを成功させるだけでなく探究学習の意味はない。自ら問いを立て、課題を解決する力が求められる。また共同で作業を進めることも必要。とどんな失敗が課題を克服する力を通じて学んでほしい。学校にはそのような指導を望む。 ○コミュニケーション力が必要だ。お互い顔を見て話すことを大切にしてほしい。ぜひ声を出して質問し、コミュニケーションで解決できる方法を見出すと良い結果を生む。コミュニケーション力を高める教育を望む。

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。